

中経 論壇

経営支援NPOクラブ監事
吉田 仁



作品を欧米で紹介したが、世界的に有名な彫刻家イサム・ノグチである。彼は、大蔵山に通い、自ら原石を採掘して作品を制作した。今、そこを管理しているのは、大蔵山スタジオで、工房を構え、制作と採掘を行っている。イサム・ノグチが採掘した場所は今も保存されている。

柱状節理という言葉は、高校時代に地学で習った記憶があるが、先日、実際に目にする機会があった。私どものNPO法人が、今年度、販路開拓支援をする会社を訪れた時である。この会社は、伊達冠石の加工を行っているが、海底から隆起する過程で、柱状節理に砂が混じり込んできたのが伊達冠石である。高城、素朴な自然の味がうまくマッチして、見る人の心に安らぎを与えてくれる。商業用としては、マンションロビーのベンチ、テーブルの天板、洗面

この石に魅せられ、自らの

自然と人 結びつきを再認識

伊達冠石の魅力

台やドアノブなどインテリアに使われているが、美術工芸品としても室内に落ち着いた雰囲気を醸し出す。

大蔵山スタジオの山田社長は、クラフトマンシップを大切に、「製作工場」ではなく、「工房」を指したいと言う。そうした姿勢が、機械加工にはない純朴さを感じさせるのだろう。

また、採掘によって傷んだ台地に、緑を取り戻す活動にも取り組んでいる。採掘場を含めた大蔵山一帯を、自然公園として散策できるようにしている。ストーンハンジを思わせる

石舞台を築き、山堂サロンなどの文化施設を建て、人々と自然の関わりを、石を通して感じてもらえるような機会を創出してきたのだ。

私は、日々、便利さと機能性を追求するあまり、自然の恵みの声に、ゆっくり耳を傾けることを忘れていたのではないかと、この大蔵山に立つて思い返した。スローライフも大切だと思いながら、その実は慌ただしい日常に流されている自分を、振り返ってみることはあまりない。コロナウィルスの影響で、これまでのライフスタイルの変化を余儀なくされている中、次の山田社長のメッセージを、重く受け止めている。

「自然と人との結びつきを再認識し、古の人々が持ち合わせていた自然への感覚を、多くの人と共有したい」

【注】ビジネス目的以外での大蔵山訪問はガイドツアーでのみ対応しております。[<https://okurayamastudio.com/information>]